

嫌いにならないために●塚本瑞江

風の名に春三番のあることを知りてひりひり晴れあがる空

「来月の十六日にしていくよ君を嫌いにならないために」

先んじてむらさきに咲く沈丁花どこより温き日だまりにいる

三月の光を袋からだしてゆずしようが糖ざりざりと囁む

「生活が立ち行くなれば反対は君はしないと思つてたのに」

訓練の災害警報鳴りわたる三・一の晴れ何気なし

名残り雪降りて吹き込む軒先に店主はやばや売る桜餅

高らかに春の空指すクレーンをぼつり見上げるはこべの緑

「壊さないために別れて住むんだしウールのコートおいていくから」

連翹の小さく咲いて薄っぺらい三月尽を知らせいるなり

春の日が照らさざるひと照らすひと乗り換え駅のホームに並ぶ

つぼみなす白木蓮の午後三時ビル風少し丸く吹きおり

「悪いけど僕の荷物が届くからそっちで受け取つといてくれない?」

始発駅三番出口のバス停にバスはそろりと桜を待ちて

その先を薄紅色に染めながらまだかまだかのさくらよさくら

河川敷轍の白く乾くころ杉菜ざくざく繁りて四月

充電式電気自転車少しでも前に進まなければならない

春雨と呼ぶには薹の立ちすぎたつぶて濡れているダンボール

「ご飯でも食べに行こうかぼちぼちと進めときたい話もあるし」

目覚めればカーテン越しの明るさに開花宣言出そうな朝